

文京キャンパス整備事業完成記念式典挨拶

平成二十七年四月二十五日（土）

本日はご多用のところ、文部科学省の藤原私学部長、成澤文京区長をはじめご来賓の皆様、そして関係する多くの皆様のご出席を頂き、学校法人拓殖大学を代表し、厚く御礼を申し上げます。

顧みますと、平成十二年の本学創立百周年を機に、次の百年に向けて拓殖大学ルネサンス計画を策定し、その中心となる事業として、ここ本学発祥の地、文京キャンパスの整備事業を推進してまいりました。

平成十七年十二月に第一ステージを着手してから第三ステージまで約十年がかりの整備事業となりましたが、今年一月にこの図書館・教室棟が竣工し、一部改修工事は残っているものの、ここで漸く完成を迎えることができました。

整備事業の概要につきましては、後程ご報告申し上げますが、これまで設計や施工を担当いただきました皆様には、狭隘な道路事情をはじめ、様々な制約のある中で誠心誠意これに当たってこられました。また、長い間工事の騒音や車輛などでご迷惑をおかけしました近隣町会の皆様をはじめ関係するすべての皆様に、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。

また、この整備事業とあわせて、ルネサンス事業募金をお願いしてまいりましたが、卒業生の皆様、学生の保護者の皆様、関係する企業・法人・団体の皆様をはじめ本学に関係する多くの方々から、あたたかいご支援と多額のご寄付を頂戴致しております。これまでに賜ったご厚志に対し、心より厚く御礼申し上げます。

この整備事業は、当初狭隘で老朽化した施設の建て替えが主な目的でございましたが、その後、大学の都心回帰現象や東日本大震災の発生等を踏まえた計画の見直しを行い、昭和五十二年に八王子キャンパスへ移転した商学部・政経学部の一・二年生を、三十八年ぶりに再びここ文京キャンパスに迎えることと致しました。これにより、文京キャンパスは以前のように商学部・政経学部、そして八王子キャンパスは名称を新たに「八王子国際キャンパス」として、外国語学部、国際学部、工学部に再編され、それぞれのキャンパスで一年から四年まで、学部一貫教育を実現することができました。

さて、今日の日本は発展を続けているアジア地域をはじめ、グローバルに活躍できる人材や少子高齢化に悩む地域社会に貢献できる人材などこれからの日本の社会を支える若くて有為な人材の育成が急務となっております。

また五年後の二〇二〇年には二回目の東京オリンピックが開催されますが、この年、本学もまた創立百二十年を迎えることとなります。

この機をとらえ、本学では既にこの四月より「教育ルネサンス」の旗を掲げて、「拓殖大学教育ルネサンスブランドデザイン」を作成中であります。

すなわち本学建学の理念を踏まえ、「学生一人ひとりが国際的視野を持ち、国内外の人々と協働して積極的に課題の発見と解決にチャレンジしていくタフで人間力豊かな拓殖人材の育成」に私共役員・教職員一丸となって取り組む所存でありますので、どうぞ皆様には今後ともご指導とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます

最後に、この度の整備事業にご尽力いただきました関係企業の皆様に対し、今後益々のご発展をお祈り申し上げますと共に、ご支援ご協力を賜りましたすべての皆様、そして本日ご列席の皆様方にあらためて御礼を申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

学校法人拓殖大学

理事長 福田 勝 幸